

リフロー（テキスト）型 電子書籍制作ガイド

= ドットブック編 =

2013年2月19日 Ver 1.4

制作：株式会社パブリッシングリンク

制作協力：JPO 日本出版インフラセンター 標準化委員会 シャープ ボイジャー

目 次

この制作ガイドは、「ドットブックフォーマット作成の手引き」（株式会社ボイジャー）及び、JPO・コンテンツ緊急電子化事業（緊デジ）仕様の理解を前提に、リフロー型ドットブック（.book）作成の手順にまとめたものです。

1. リフロー型ドットブック(.book)作成の手順
2. 制作前に準備するもの
3. TTXファイルの作成
4. propファイルの作成
5. 書棚用サムネイルファイルの作成
6. 立ち読み版の作成
7. ドットブックビルダーでドットブックの生成及び検査

※説明中の「TTX仕様」は、「TTX Spec for “.book” TTX仕様（V1.1）」株式会社ボイジャー発行を示します。

1. リフロー型ドットブック (.book) 作成の手順

【手 順】

- (1) TTXファイルの作成
- (2) Propファイルの作成
- (3) 書棚用サムネールファイルの作成
- (4) 立ち読み版の作成
- (5) ドットブックビルダーでドットブックの生成及び検査

2. 制作前に準備するもの

(1) 本文テキストファイル

※本ガイドでは、予めテキストファイル化及び画像ファイル化を終わらせていることを前提にしています。

(2) 画像ファイル

- ・書影画像（表紙カバー画像）
- ・イラスト、写真、図表の画像
※キャプションを含みます。
- ・奥付画像

※JPEGデータ（1頁1ファイル）

長辺1536ピクセルを基準とした画像

(3) 書誌情報

- ・タイトル、著者名（訳者名等含む）、出版社名（発行元） 等

(4) テンプレートTTXファイル（配布）

(5) テンプレートPropファイル（配布）

3. TTXファイルの作成

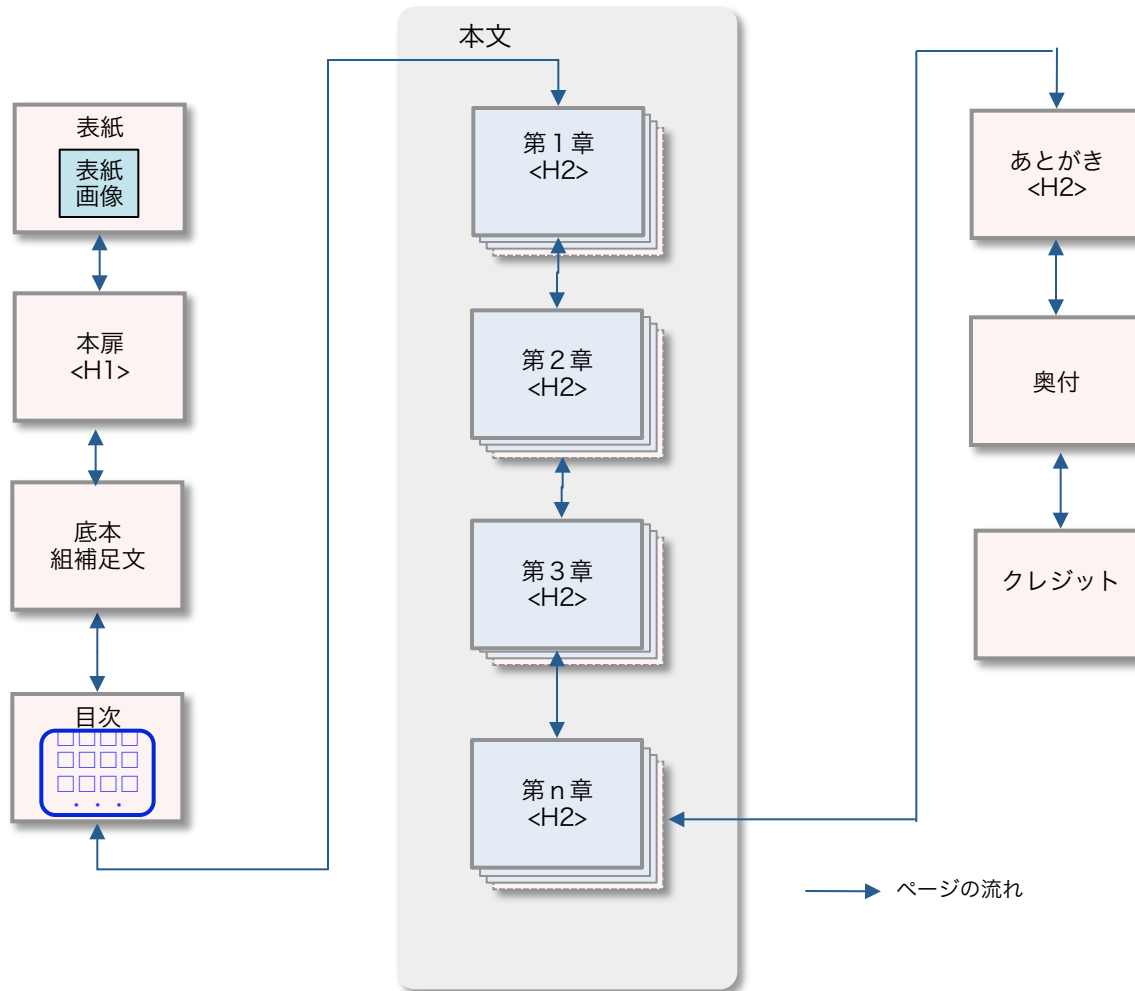
●テンプレートTTXファイルを開き、下記項目を設定します

- (1) 体裁について
- (2) 書誌情報の設定
- (3) 組方向の設定
- (4) 表紙
- (5) 本扉
- (6) 底本組補足文
- (7) 目次の設定 (リンク)
- (8) 見出しと本文の設定
- (9) 画像の設定
- (10) 奥付の設定
- (11) 電子クレジット作成

3. TTXファイルの作成 = 文書構造について =

●TTXファイルの作成には、文書構造を理解しておくことが重要です

※見出しレベルは、段落系スタイル「見出し」を参照してください。



【作業手順】（１）体裁について

■空白文字

文字間隔調整の空白文字を含め InDesign データの通りとします。

[例] 「日 本」

ただし、段落先頭の１字下げは、全角空白文字を使用します。

■体裁指定

- ・ TTX仕様書の「ポートビリティ＝ {A} 」のタグ及び属性を使用するものとします。(TTX→XMDFの互換性を考慮)
例外として、ポートビリティ＝ {B} の圏点タグ(<T-EM>)は使用するものとします。
- ・ ファイル名、フォルダ名、スタイルのクラス名、ネームアンカー(<A>タグや<MAP>タグの name属性値)に
２バイト文字（全角）は使用しないでください。

[誤] 画像001.jpg

→ [例] gazou001.jpg

<STYLE> H2.目次 { xsize:"140%" } </STYLE> → [例] <STYLE> H2.mokuji { xsize:"140%" } </STYLE>
 → [例]

■格納フォルダ

画像外字は画像(インライン画像含む)と別フォルダに収めます。（すべての画像でファイル名は重複しないものとします）

画像(インライン画像含む)フォルダ名 → img

画像外字フォルダ → gaiji

■同一タグのネスト（入れ子）

禁止とします。

※やむをえず文字装飾のため指定する場合は２階層までとします。

[原則禁止] <T-FONT xsize="120%">□□□<T-FONT xsize="140%">□□</T-FONT>□□□</T-FONT>

【作業手順】 (1) 体裁について ～つづき～

ページ系スタイル

■組方向と送り方向

底本の主たる組方向を指定(初期表示)とします(ビューア側での縦横切り替えは可能とします)

[例] TTXファイル: <T-Time stroke="default" ~>
propファイル: stroke: "tate"; または stroke: "yoko"

※組方向の変換により、体裁崩れが生じる恐れがあるため「底本組補足」ページに底本の主たる組方向を告知します。

※1コンテンツを通して同じ組方向、送り方向とします。

■改頁

ページに適したスタイル(t-class)を指定します。

直前の改頁(<T-PB>)に指定したスタイルが同じでも t-class指定します。

※改頁(<T-PB>)直前に改行(
)タグを入れないでください。白頁が生成される恐れがあります。

[例] <T-PB t-class="honmon">

【禁止事項】

改頁(T-PB)タグが出現する前までに、タグは閉じてください(<BODY><HTML>は除く)

[誤] <T-FONT xsize="120%">□□□<T-PB t-class="xxxx"> □□□ </T-FONT>

[正] <T-FONT xsize="120%">□□□</T-FONT><T-PB t-class="xxxx"> <T-FONT xsize="120%"> □□□ </T-FONT>

目次(<T-CONTENTS>)に改頁(<T-PB>)タグは入れられません。

[誤] <T-CONTENTS>

第1章
 ~

<T-PB>

第10章
 ~

</T-CONTENTS>



[正] <T-CONTENTS>

第1章
 ~

第10章
 ~

</T-CONTENTS>

【作業手順】 (1) 体裁について ～つづき～

■ 頁揃え

頁中央揃え

[例] HEAD: <STYLE> T-PB.xxxx { valign:"middle"; ~ }
BODY: <T-PB t-class=".xxxx">

~~頁末揃え~~

~~[例] HEAD: <STYLE> T-PB.xxxx { valign:"bottom"; ~ }
BODY: <T-PB t-class=".xxxx">~~

XPDFが未対応のため指定しない

■ 柱表示

底本の体裁にかかわらず、表示位置は「左」、レベルは「2」として柱を表示します。

ただし、表紙、口絵、扉、電子クレジット、奥付(及び以降の)ページには柱は表示しません。

[例] HEAD: <T-Time
hashiraAlign="left"
hashiraLevel="2" ~
>
<STYLE> T-PB.xxxx { hashiraVisible:"true"; ~ }
BODY: <T-PB t-class=".xxxx">

【作業手順】 (1) 体裁について ～つづき～

段落系スタイル

■見出し

H1～H6 (H1 が最大) の見出しが指定できます。本扉にはH1、以下の見出しを H2 ～ H6 で指定します。
階層が下がる時は、連番で（飛び番なく）指定します。該当レベルがない箇所は非表示 (hashiraVisible=false) を使用。
階層が上がる時は、底本の見出しレベルを考慮して設定してください。この場合はヌケがあってもOKです。
見出しの種類によって、文字サイズが異なります。(スタイルで設定します)

| [見出しの種類 (見出しタグ)] | [文字サイズ] | [スタイル (クラス)] |
|------------------------|---------|---------------------|
| 本扉 (H1) | 1 6 0 % | H1.h1_chapter |
| 本扉以外の扉見出し (H2～H6) | 1 4 0 % | H2～H6.h2～h6_larger |
| 本文より大きい文字の行見出し (H2～H6) | 1 2 0 % | H2～H6. h2～h6_large |
| 本文と同じ大きさの行見出し (H2～H6) | 1 0 0 % | H2～H6. h2～h6_midium |

見出しのスタイルはクラス(t-class)を使用します。

【例】 見出しがリンク先になる場合。見出しレベル[H3]、アンカー [A010]、見出し文字サイズが [本文より大きい] の例。

TTX: <H3 t-class="h3_large">行見出し</H3>

字下げ、書体、文字サイズ、カットロゴ付、行揃えなど、多様な体裁がありますが統一します。

リード文は、同一ページまたは、後続の単独ページを起こして対応致します。

【禁止事項】

見出しタグ(H1～H6)の中で改行は入れないでください。

【誤】 <H1 ～>第 1 章
春の物語</H1>

→【正】 <H1 ～>第 1 章 春の物語</H1>

【誤】 <H1 ～>春の物語
<T-TAB>～サブタイトル～ </H1>

→【正】 <H1 ～>春の物語</H1><T-TAB>～サブタイトル～

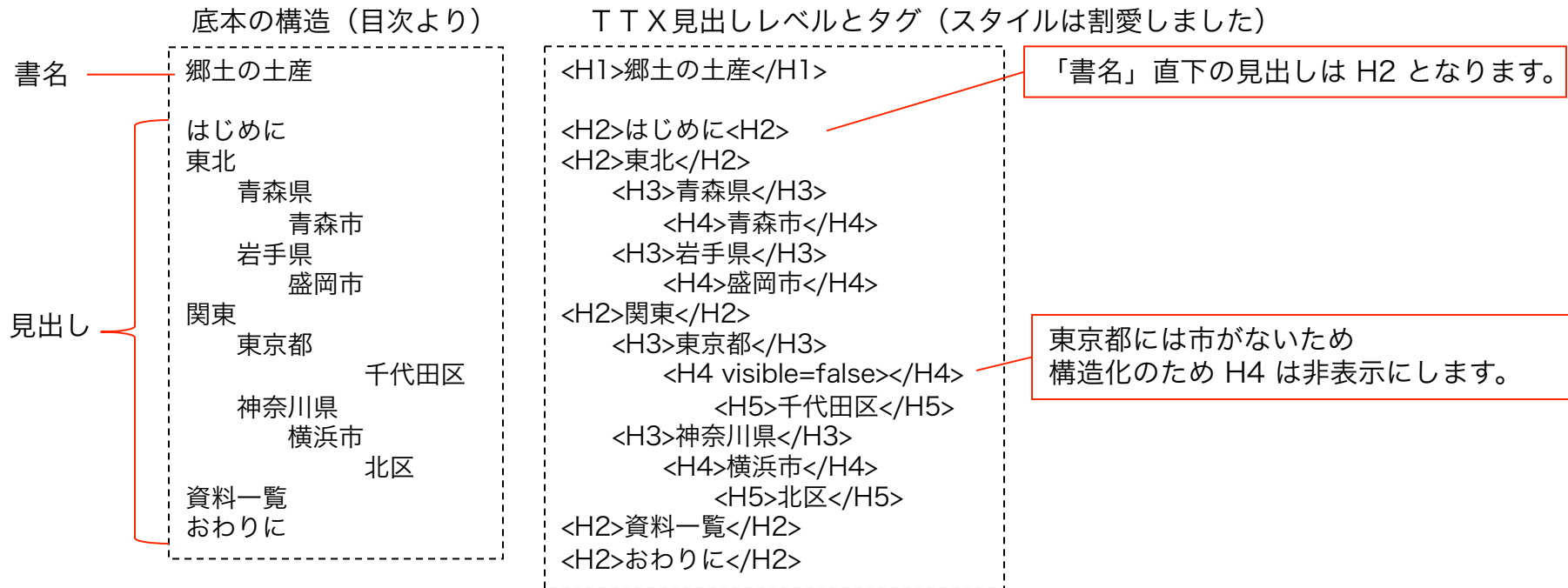
【作業手順】 (1) 体裁について ～つづき～

【見出しのレベル】

都道府県以下の市町村を例にしてみました。

H2に地方、H3に都道府県、H4市町村、H5に区とする構造化にした場合、以下のようなT T Xタグとなります。

※わかりやすく字下げをしています。



【作業手順】（１）体裁について ～つづき～

■区切行

「＊」「◆」などの区切行は、

- ・前後に１行アキ
- ・３字下げ

[例] □□□□□□□□□□

 <T-TAB> <T-TAB> <T-TAB>＊

 □□□□□□□□□□

【禁止事項】

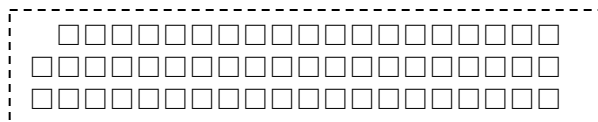
区切り行は見出しでないので <H～> タグは使用しません。

※数字見出しは、見出しのため <H～>タグを使用してください。

【作業手順】 (1) 体裁について ～つづき～

■字下げ

行頭のみ字下げ

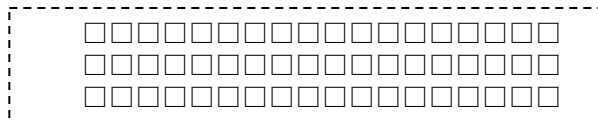


横組のイメージ

全角空白文字で指定します。

[例] □□□□□□～

行全体の字下げ (start属性を使用)



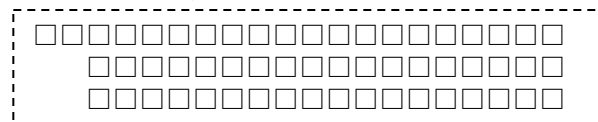
横組のイメージ

[例] 字下げが連続する箇所は start が便利。

<BR start=2L>

□□□□□□～<BR start=0>

成り行き行頭字下げ

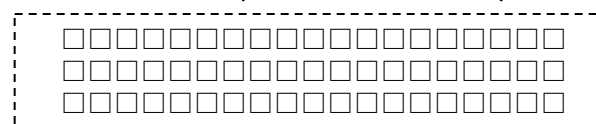


横組のイメージ

[例] <BR start=0 indent=-2>

□□□□□□～<BR start=0 indent=0>

行全体の字下げ(T-TABタグを使用)



横組のイメージ

[例] 字下げが1行の場合は<T-TAB>が便利。

<T-TAB> □□□□□□～

※注意

ドットブックおよびTTX→XMDFのタブ幅は全角1文字となります。

TTXのビューア表示タブ幅(初期値)は2文字のため差異が生じます。

このため、T-Time ビューにて以下の設定が必要になります。

メニュー [詳細] → [字間] → [タブ幅] → [1]

●タブ幅を設定する tabmargin 属性は使えません。

※本文の字下げ量は、InDesignデータに準拠します。

ただし、字下げ量が多く（対象デバイスで）空行が生じる、明らかに体裁がおかしくなる場合は調整します。

【作業手順】（１）体裁について ～つづき～

■改行

[例] 文字列

■行揃え

行中央揃え

[例] <DIV align="center">行中央揃え文字列</DIV>

行末揃え

[例] <DIV align="right">行末揃え文字列</DIV>

■注

脚注・頭注・後注

注(説明文)は対象ページの最終段落の直後に掲載します。

注へのリンクはしません。

体裁は「【作業手順】 その他」のコラムに準拠します。

割注

全角カッコ「（」「）」で囲み、一行/文字サイズ100%で表示する。

例： 割注（本文の中にある注）は → 割注（本文の中にある注）は

【作業手順】（１）体裁について ～つづき～

文字系スタイル

■文字サイズ

本文、見出しの初期値は "16" です。

文字サイズ変更は相対値（％）で行います。

※底本（紙）と電子書籍の文字サイズ及び相対比率は一致しません。

■ルビ

InDesign データ通りとします。明らかにおかしい体裁のものは以下の基準で設定します。

本来の文字にルビを振ります（モノルビ）。

ただし、当て字や熟字訓は熟語単位にルビを振ります（グループルビ）。

モノルビ： <T-R>漢字（かん<！>じ）

グループルビ： <T-R>百舌鳥（もず）

モノ&グループ混合： <T-R>大和（やまと）<T-R>美人（び<！>じん）

1文字に5文字以上のルビを振る場合は単語の後ろの全角カッコ「（」「）」内にルビを表示します。

※ルビが多いとすべてのルビが表示されない場合があります。

例：試（こころみる）

ルビに使われている全角パーレン「（」「）」は半角パーレンとします。

※<T-R>タグで全角パーレンは使用できません。<RUBY>タグでは終わりパーレンが残骸として残る不具合があります。

例：<T-R>漢字（（かんじ）） → <T-R>漢字（(かんじ)）

【作業手順】（１）体裁について ～つづき～

■圏点

圏点のstyle属性（「\」「・」等の設定）は指定しません。

※ルビタグで圏点は設定しません。

例： <T-EM>圏点文字列</T-EM>

■縦中横

該当する箇所ごとに設定します。

※半角文字が対象。

※横組み固定(縦組みにする必要のない)指示があるものは除く。

例： 第<T-YOKO>20</T-YOKO>回

■文字色

色指定はしません。

■下線

※縦組みでは右側線になります。

例： <U>下線</U>

【作業手順】 (1) 体裁について ～つづき～

■下付き文字

並字に対して文字サイズ 60% とします。構造表現としてClass指定で対応します。(EPUBに備え)

例：[O₂]

```
<HEAD>
<STYLE type="text/t-time">
  T-FONT.sub { xsize:60% }
</STYLE>
</HEAD>
<BODY>
□□□O<T-FONT t-class="sub">2</T-FONT>□□□<BR>
</BODY>
```

■上付き文字

並字で対応します。構造表現としてClass指定で対応します。(EPUBに備え)

例：[$\chi^2 \rightarrow \chi^2$]

```
<HEAD>
<STYLE type="text/t-time">
  T-FONT.sup { xsize:100% }
</STYLE>
</HEAD>
<BODY>
□□□  $\chi$  <T-FONT t-class="sup">2</T-FONT>□□□<BR>
</BODY>
```

※T-MOVEタグで文字移動はしません。

【作業手順】 (1) 体裁について ～つづき～

■太字

文字色を赤で表示します。構造表現としてClass指定で対応します。(EPUBに備え)

```
例： <HEAD>
<STYLE type="text/t-time">
  T-FONT.bold { color:red }
</STYLE>
</HEAD>
<BODY>
□□□<T-FONT t-class="bold">bold strings</T-FONT>□□□<BR>
</BODY>
```

■斜体・イタリック

文字色を赤で表示します。構造表現としてClass指定で対応します。(EPUBに備え)

```
例： <HEAD>
<STYLE type="text/t-time">
  T-FONT.italic { color:red }
</STYLE>
</HEAD>
<BODY>
□□□<T-FONT t-class="italic">Italic strings</T-FONT>□□□<BR>
</BODY>
```

【作業手順】（１）体裁について ～つづき～

■外字（書誌情報および電子クレジット限定）

- T T Xファイル内の「書誌情報」は、J I S（X0201）第1水準及び第2水準にしか使えません。
無い文字は以下の対応とします。

1. 「欧文アクセント記号つき文字」の場合
アクセントを除いた文字を入力します。

例 「À」 → 「A」

2. 「J I S文字がある異体字」の場合
J I S文字を入力します。

例 「高」 → 「高」

- 「クレジット」の場合は、以下の対応とします。

1. 「欧文アクセント記号つき文字」の場合
「T T X仕様」にて「ネームエンティティ」をサポートする欧文アクセント文字は、これに従います。

例： À (Aグレーヴアクセント) → À

2. その他

「ネームエンティティ」対象外の文字は画像外字で対応します。形式はJPO仕様を参照。

例： <T-CODE src="gaiji/cid-08370.png">

ただし、CIDに無いユーザー外字のファイル名は以下の書式とします。

G_xxxx.png

"xxxx" は任意です。イメージがわかるものを推奨します。

[例] 「𐤎」 → G_yubin.png

【作業手順】（１）体裁について ～つづき～

■数式・化学式

文字組みで対応できない場合はインライン画像で対応します。

例： 1行に収めるインライン画像の例

```
<T-IMG src="img/root.png" line=1>
```

※縦組みと横組みで同一内容であっても、向きを変えた別画像が必要になります。

【作業手順】 (1) 体裁について ～つづき～

その他

■リンク

リンク文字をクリックするとアンカーのある位置にジャンプします

[参考]

アンカー名(name属性の値)について、以下の記述をするとわかりやすくなります。

アンカー名を "A" から始まる文字。つづいて "001" から始まる数値。(見出しレベルで桁を揃えるなど)

双方向リンクの(ジャンプ元がジャンプ先として使う)場合、アンカーの末尾に "R" を付けます。

[例]

【ジャンプ元(片方向リンク)】

```
<A href="#A001">リンク元</A><BR>
```

【ジャンプ先(片方向リンク)】

```
<A name="A001"></A>ジャンプ先<BR>
```

[例]

【ジャンプ元(双方向リンク)】

```
<A name="A001R" href="#A001">リンク元</A><BR>
```

【ジャンプ先(双方向リンク)】

```
<A name="A001" href="#A001R">ジャンプ先</A><BR>
```

【作業手順】 (1) 体裁について ～つづき～

■罫線

行と並行な線を引きます

[例] <HR>

■画像

1 ページ画像

[例] 縦長または正方形の画像

```
<T-PB t-class="image">
```

```
<T-IMG src="img/xxxx.jpg" height="100%" orgwidth="1200" orgheight="1536" shrink="screen">
```

```
<T-PB ~>
```

[例] 横長の画像

```
<T-PB t-class="image">
```

```
<T-IMG src="img/xxxx.jpg" width="100%" orgwidth="1536" orgheight="1200" shrink="screen">
```

```
<T-PB ~>
```

段落間画像

[例]

```
<T-IMG src="img/p010.jpg" width="300" height="300" shrink="screen">
```

■全角／半角混在文章

全角／半角混在文字は見栄えよく修正をします。

P r i n t e d i n J a p a n → Printed in Japan

【作業手順】 (2) 書誌情報の設定 (3) 組方向の設定

●TTXファイルを開き、書誌情報、組方向、スタイルを設定します。

TTXファイル

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>電子物語</TITLE>
<T-Time
```

```
author="電子太郎"
publisher="J P O 出版"
pagewidth="640"
pageheight="480"
align="center"
valign="middle"
forget="false"
indent="0"
start="0"
hashiraVisible="false"
hashiraAlign="left"
hashiraAutoHide="false"
hashiraLevel="2"
tateyoko="0"
dan="0"
bgcolor="#FFFFFF"
stroke="default"
```

```
// 画面の幅
// 画面の高さ
// 行位置 (組み方向)
// 行位置 (行方向)
// 前回開いた状態の再現
// 段落頭のインデント
// インデントの設定
// 柱の表示・非表示
// 柱の表示位置
// ヘッダのあるページを非表示 (設定する場合は個々に指定)
// 柱のヘッダーレベル
// 自動縦中横
// 段組みの段数を指定
// 背景色 → 白
// 組方向
```

<TITLE></TITLE> に書名
author="" に著者名 (複数名の場合は「、」で区切って下さい)
publisher="" に出版社名 をそれぞれ入力します。

※全角半角の選別は底本に準拠します。
また、外字やタグ (ルビ、縦中横) は入力しません。
※組方向は strokeタグの値は "default" 固定とします。

>

【作業手順】 (2) 書誌情報の設定 (3) 組方向の設定 ～つづき～

●TTXファイルを開き、書誌情報、組方向、スタイルを設定します。

TTXファイル

```
<!-- ===== 注意 ===== -->
<T-NOCASE script2.2>
このコンテンツはT-Time2.1以下では正しく表示されません。
</T-NOCASE>
<!-- ===== サムネイル ===== -->
<T-PDEF id="1000" src="thumbnail.png" width="96" height="128">
<T-PDEF id="1001" src="thumbnail_L.png" width="48" height="64">
<T-PDEF id="1002" src="thumbnail_M.png" width="24" height="32">
<T-PDEF id="1003" src="thumbnail_S.png" width="12" height="16">
<!-- ===== スタイル ===== -->
<STYLE type="text/t-time">
  T-PB.hon_tobira { align:"left"; valign:"middle"; hashiraVisible:"false"; }
  T-PB.tobira     { align:"left"; valign:"middle"; hashiraVisible:"false"; }
  T-PB.mokuji     { align:"left"; valign:"top"; hashiraVisible:"true"; }
  T-PB.honmon     { align:"left"; valign:"top"; hashiraVisible:"true"; }
  T-PB.image      { align:"center"; valign:"middle"; hashiraVisible:"true"; }
  T-PB.okuzuke    { align:"left"; valign:"top"; hashiraVisible:"false"; }
  T-PB.credit     { align:"left"; valign:"top"; hashiraVisible:"false"; start:0; indent:-6; }
  T-PB.credit_t   { align:"left"; valign:"top"; hashiraVisible:"false"; }

  H1.h1_chapter { xsize:160%; }
  H2.h2_larger  { xsize:140%; }
  H2.h2_large   { xsize:120%; }
  H2.h2_medium  { xsize:100%; }
  H2.h2_small   { xsize:80%; }
```

スタイルはここで指定したものを使用します

【作業手順】 (2) 書誌情報の設定 (3) 組方向の設定 ～つづき～

●TTXファイルを開き、書誌情報、組方向、スタイルを設定します。

TTXファイル

```
H3.h3_larger { xsize:140%; }  
H3.h3_large { xsize:120%; }  
H3.h3_medium { xsize:100%; }  
H3.h3_small { xsize:80%; }  
H4.h4_large { xsize:120%; }  
H4.h4_medium { xsize:100%; }  
H4.h4_small { xsize:80%; }  
H5.h5_large { xsize:120%; }  
H5.h5_medium { xsize:100%; }  
H5.h5_small { xsize:80%; }  
H6.h6_large { xsize:120%; }  
H6.h6_medium { xsize:100%; }  
H6.h6_small { xsize:80%; }  
T-FONT.italic { color:red; }  
T-FONT.bold { color:red; }  
T-FONT.sub { xsize:60%; }  
T-FONT.sup { xsize:100%; }  
T-FONT.larger { xsize:140%; }  
T-FONT.large { xsize:120%; }  
T-FONT.medium { xsize:100%; }  
T-FONT.small { xsize:80%; }  
T-FONT.smaller { xsize:60%; }  
</STYLE>  
</HEAD>  
<BODY>  
~
```

【作業手順】（４）表紙



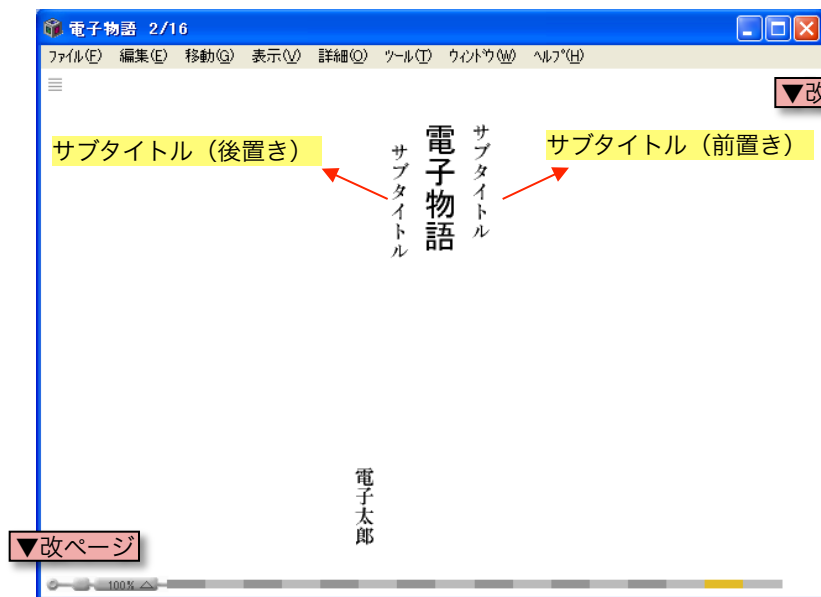
表紙ページです

- 底本の書影（表紙）画像を表示します。
- 天地左右中央揃えとします。
- ファイル名は「cover.jpg」とします。
- サイズは「ページ見せ画像」に準拠します。
- 表紙ページでは柱を表示しません。

TTXファイル

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>～</TITLE>
<T-Time
    hashiraVisible="false"           // 柱の表示・非表示
    align="center"                   // 行位置（組み方向）
    valign="middle"                  // 行位置（行方向）
    ~
</HEAD>
<BODY>
<!-- ===== 表紙 ===== -->
<T-IMG src="img/cover.jpg" a=0 height="100%" orgwidth="1200" orgheight="1536"
shrink="screen">
<!-- ===== 本扉 ===== -->
<T-PB ~>
```

【作業手順】（５）本扉



扉ページでは柱を表示しません。

■書籍タイトルを表示する。

- ・書籍タイトルは、見出しタグ <H1> で囲みます。
- ・サイズ：本文の160%
- ・位置
縦組み=上揃え/左右中央揃え
横組み=中央揃え/左右中央揃え
- ・柱は表示しません。

■サブタイトル

サブタイトルがある場合は以下の通りにします。

※見出しタグで囲みません

- ・フォント：本文と同じとします
- ・サイズ：本文と同じとします
- ・位置

書籍タイトルの前後（底本に準拠）に配置します。

サブタイトルを書籍タイトルより前に置く場合は天付きとします。

サブタイトルを書籍タイトルより後に置く場合は、
（本文サイズ相当で）1字下げとします。（著者名は次行になります）

■著者名

※見出しタグで囲みません

- ・フォント：本文と同じとします
- ・サイズ：本文と同じとします
- ・位置 本扉の最終行に行末揃えで配置します

TTXファイル

※目次からリンクしません

```
<!-- ===== 本扉 ===== -->
<T-PB t-class="hon_tobira">
<H1 t-class="h1_chapter">電子物語</H1>
<DIV align="right">電子太郎</DIV>
```

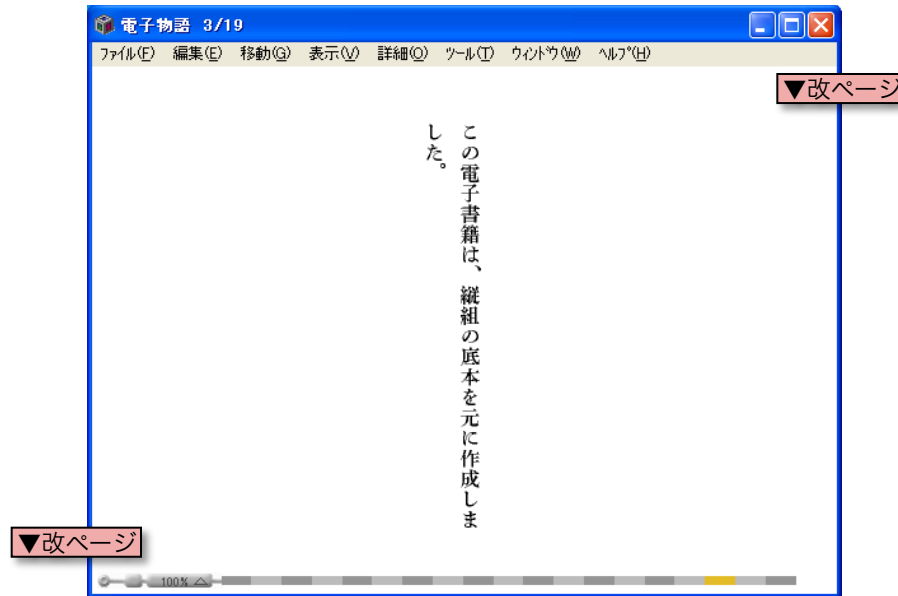
サブタイトル（前置き）の例

```
<!-- ===== 本扉 ===== -->
<T-PB t-class="hon_tobira">
サブタイトル
<H1 t-class="h1_chapter"> 電子物語</H1>
<DIV align="right">電子太郎</DIV>
```

サブタイトル（後置き）の例

```
<!-- ===== 本扉 ===== -->
<T-PB t-class="hon_tobira">
<H1 t-class="h1_chapter">電子物語</H1>
<T-TAB>サブタイトル<BR>
<DIV align="right">電子太郎</DIV>
```

【作業手順】（6）底本組補足文



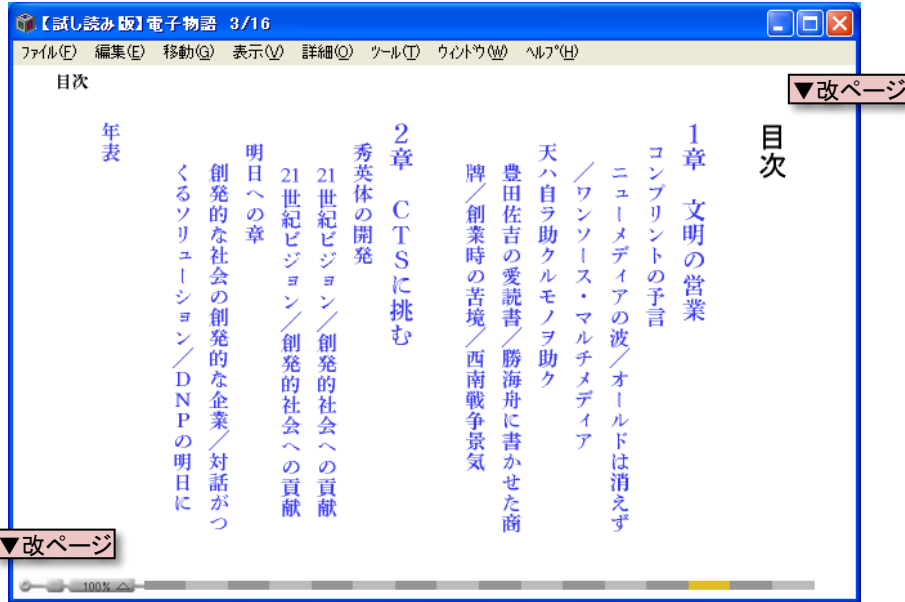
TTXファイル（縦組みの場合）

```
<!-- ===== 電子クレジット  
===== -->  
<T-PB t-class="tobira">  
この電子書籍は、縦組の底本を元に作成しました。
```

TTXファイル（横組みの場合）

```
<!-- ===== 電子クレジット  
===== -->  
<T-PB t-class=" tobira ">  
この電子書籍は、横組の底本を元に作成しました。
```

【作業手順】 (7) 目次の設定 (リンク)



■目次

- ・ 底目次にあれば、3階層までの項目を目次表示しリンクします。ただし、リンクはジャンプ先「ノンブル」記載のものに限ります。ジャンプ先「ノンブル」は表示しません。
- ・ 第1階層(H2見出し)は天付、文字サイズ対本文120%、直前に空行を入れます。ただし、本文(「前書き、後書き」含む)以外の文字サイズは、本文と同じにします。
- ・ 第2階層(H3見出し)は1字下げ、文字サイズは本文と同じ、直前行のアキベタとします。
- ・ 第3階層(H4見出し)は2字下げ、文字サイズ本文と同じ、直前行のアキベタとします。
- ・ 「本扉」以降(「扉」ページを除く)のページから柱を出力します。

※目次ページがない場合は

<BODY>タグ直後に <T-CONTENTS>タグを記載してください。

[例] 目次がないときの<T-CONTENTS>タグ

<BODY>

<T-CONTENTS></T-CONTENTS>

～

※見出しにおける文字サイズや字下げ数は目安です。

TTXファイル

```
<!-- ===== 目次 ===== -->
<T-PB t-class="mokuji">
<H2 t-class="larger">目次</H2><BR>
<T-CONTENTS>
<A href="#A010" name="A010R"><T-FONT t-class="large">1章 文明の営業</T-FONT></A><BR>
<A href="#A011" name="A011R"><T-TAB>コンプリントの予言</A><BR>
<A href="#A012" name="A012R"><T-TAB><T-TAB>ニューメディアの波／オールドは消えず／ワンソース・マルチメディア</A><BR>
<A href="#A013" name="A013R"><T-TAB>天ハ自ラ助クルモノヲ助ク</A><BR>
<A href="#A014" name="A014R"><T-TAB><T-TAB>豊田佐吉の愛読書／勝海舟に書かせた商牌／創業時の苦境／西南戦争景気</A><BR>
<BR>
<A href="#A020" name="A020R"><T-FONT t-class="large">2章 CTSに挑む</T-FONT></A><BR>
<A href="#A021" name="A021R"><T-TAB>秀英体の開発</A><BR>
<A href="#A022" name="A022R"><T-TAB><T-TAB><T-YOKO>21</T-YOKO>世紀ビジョン／創発的社会への貢献</A><BR>
<A href="#A023" name="A023R"><T-TAB><T-TAB><T-YOKO>21</T-YOKO>世紀ビジョン／創発的社会への貢献</A><BR>
<A href="#A024" name="A024R"><T-TAB>明日への章</A><BR>
<A href="#A025" name="A025R"><T-TAB><T-TAB>創発的社会の創発的な企業／対話がつくるソリューション／DNPの明日に</A><BR>
<BR>
<A href="#A090" name="A090R">年表</A>
</T-CONTENTS>
```

【作業手順】（８）見出しと本文の設定



■扉見出しを表示します。

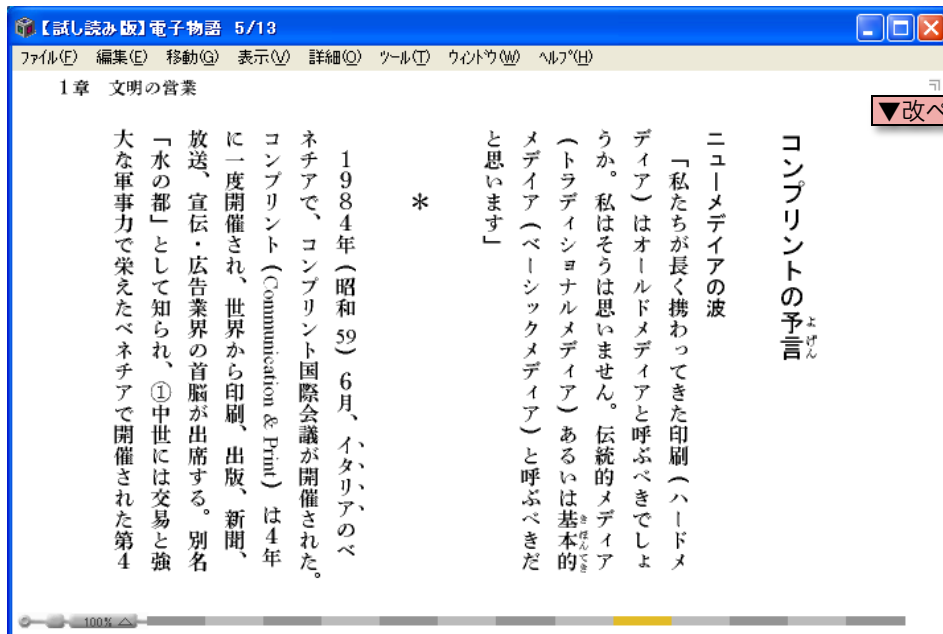
- 「扉見出し」「行見出し」は底本に準拠します。
※左は扉見出しの例です。
- <H2> の見出しが目次にある場合は
目次(のジャンプ元項目) へ戻るリンクを設定してください。
[確認]

※見出しレベルは、段落系スタイル「見出し」を参照してください。

TTXファイル

```
<!-- ===== 章扉 ===== -->
<T-PB t-class="tobira">
<H2 t-class="h2_larger"><A name="A010" href="#A010R">1章 文明の営業</A></H2>
```

【作業手順】 (8) 見出しと本文の設定 ～つづき～



行見出しと本文です。

※見出しレベルは、段落系スタイル「見出し」を参照してください。

・段落の字下げは、全角空白を使います。

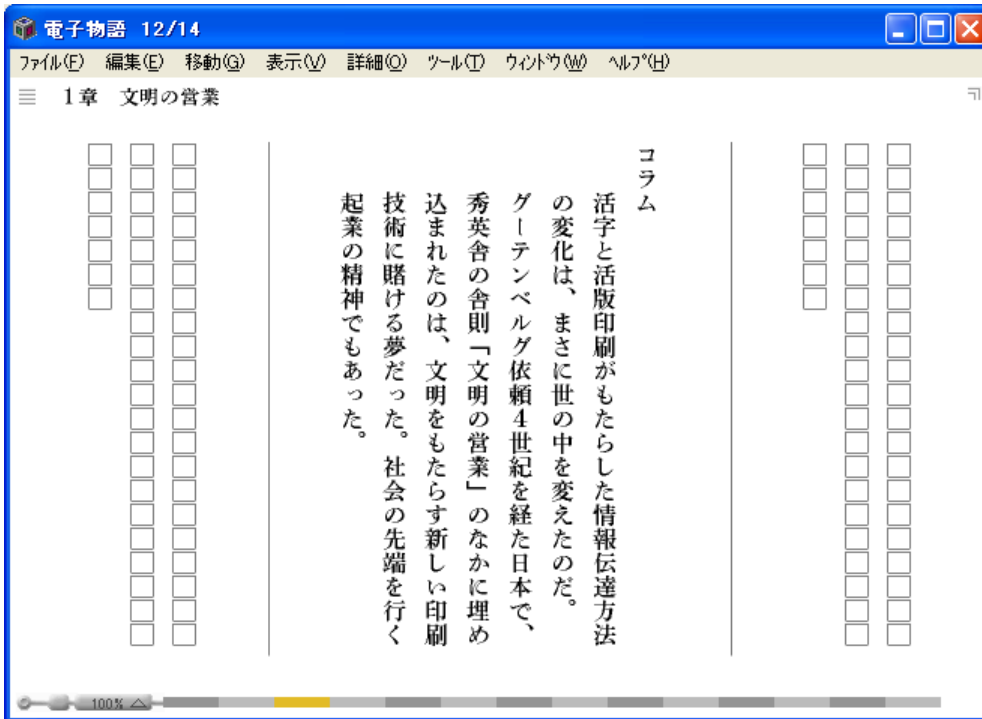
※「*」行は区切り行のため見出しではありません。

TTXファイル

```
<!-- ===== 本文 ===== -->
<T-PB t-class="honmon">
<BR>
<H3 t-class="h3_large"><A name="A011">コンプリントの<T-R>予言（よ<！>げん）</A></H3>
<H4 t-class="h4_midium">ニューメディアの波</H4>
「私たちが長く携わってきた印刷（ハードメディア）はオールドメディアと呼ぶべきでしょうか。私はそうは思いません。伝統的メディア（トラディショナルメディア）あるいは<T-R>基本的（き<！>ほん<！>てき）メディア（ベーシックメディア）と呼ぶべきだと思います」<BR>
<BR>
<T-TAB><T-TAB><T-TAB>*<BR>
<BR>
1984年（昭和<T-YOKO>59</T-YOKO>）6月、<T-EM>イタリア</T-EM>のベネチアで、コンプリント国際会議が開催された。コンプリント（Communication & Print）は4年に一度開催され、世界から印刷、出版、新聞、放送、宣伝・広告業界の首脳が出席する。別名「水の都」として知られ、
<T-CODE src="gaiji/C07555_M96.png">中世には交易と強大な軍事力で栄えたベネチアで開催された第4回コンプリントのテーマは「コミュニケーション、印刷して個人」というものだった。<BR>
```

【作業手順】

（８）見出しと本文の設定 ～つづき～



- ・「コラム」
- ・「頭注」「後注」「脚注」
- ・背景色が異なる
- ・囲み罫がある

文書の前後に罫線を入れ、罫の前後は1行アキ。
文章は2字下げとします。

※<HR>直前で字下げ（<T-TAB>含む）を解除しないと、
T-TIMEビューアで縦組／横組みで差異が生じます。

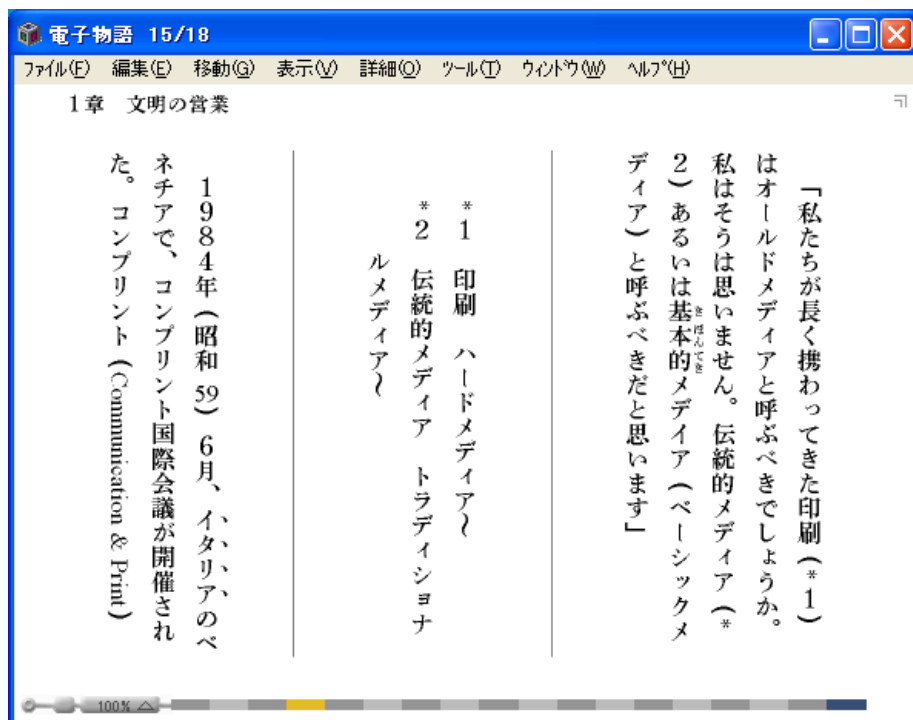
TTXファイル

<HR>

コラム<BR start=2L>
活字と活版印刷がもたらした情報伝達方法の変化は、まさに世の中を変えたのだ。

グーテンベルグ依頼４世紀を経た日本で、秀英舎の舎親「文明の営業」のなかに埋め込まれたのは、文明をもたらす新しい印刷技術に賭ける夢だった。社会の先端を行く起業の精神でもあった。<BR start=0>
<HR>

【作業手順】（８）見出しと本文の設定 ～つづき～



■ 注の例

- ・本文の欄外にある注（脚注、頭注、後注）は、該当する最後の注番号の後に説明文を掲載します。
- ・注の体裁、2字下げ、成り行き4字下げ。（注番号問わず）
- ・注にはリンクを設定しません。

TTXファイル

<!-- ===== 本文 ===== -->

<T-PB t-class="honmon">

「私たちが長く携わってきた印刷（*1）はオールドメディアと呼ぶべきでしょうか。私はそうは思いません。伝統的メディア（*2）あるいは<T-R>基本的（き<!--ほん-->てき）メディア（ベーシックメディア）と呼ぶべきだと思います」

<HR>

<BR start=2L indent=-2>

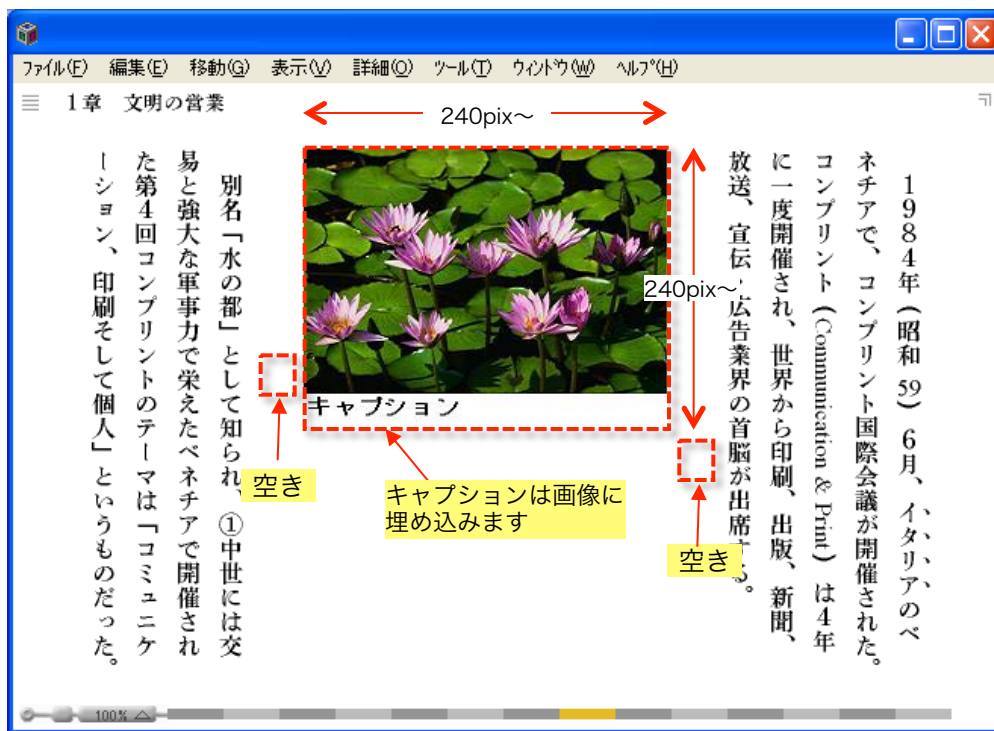
*1 印刷 ハードメディア～

*2 伝統的メディア トラディショナルメディア～<BR start=0 indent=0>

<HR>

1984年（昭和<T-YOKO>59</T-YOKO>）6月、<T-EM>イタリア</T-EM>のベネチアで、コンプリント国際会議が開催された。コンプリント（Communication & Print）は4年に一度開催され～

【作業手順】(9) 画像設定



段落間に入る画像です。

- ・底本ページに対して、概ね60%未満のもの対象とします。
- ・位置は天付で、画像の前後に1行アキを入れます。

キャプションは画像として取り込みます。

キャプションの地色は背景色（白）とします。

- ・画像サイズは 240ピクセル以上のサイズで作成します。

※参考：

高さピクセルは、底本版面の高さ1536ピクセルとした相対値。

図表など文字が判読できない場合は、
ピクセルを増やすなど品質向上します。

- ・画像にテキストの回り込みはしません。

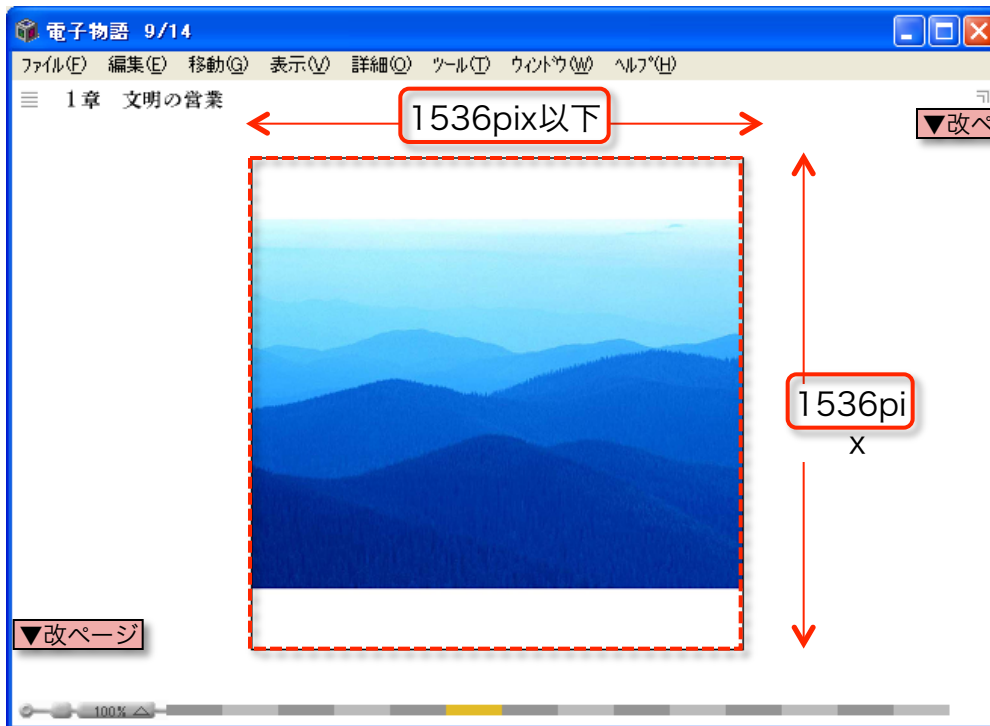
TTXファイル

1984年（昭和<T-YOKO>59</T-YOKO>）6月、<T-EM>イタリア</T-EM>のベネチアで、コンプリント国際会議が開催された。コンプリント（Communication & Print）は4年に一度開催され、世界から印刷、出版、新聞、放送、宣伝・広告業界の首脳が出席する。

<T-IMG src="img/samp1.jpg" width="240" height="180">

別名「水の都」として知られ、<T-CODE src="gaiji/C07555_M96.png">中世には交易と強大な軍力で栄えたベネチアで開催された第4回コンプリントのテーマは「コミュニケーション、印刷そして個人」というものだった。

【作業手順】 (9) 画像設定 ～つづき～



1ページ見せ画像です。

- ・底本ページに対して、60%以上のもの対象とします。
- ・画面サイズ大で表示します（版面サイズではありません）
- ・天地左右中央に配置します。
- ・長辺サイズ 1536 ピクセル。
短辺は成り行き（1536ピクセル以下）で作成します。
- ・キャプションを入れる場合は画像に組み込みます。
- ・キャプションの地色および余白を作成する場合は、背景色（白）とします。
- ・1ページ見せのため、両端に改ページタグが入ります。

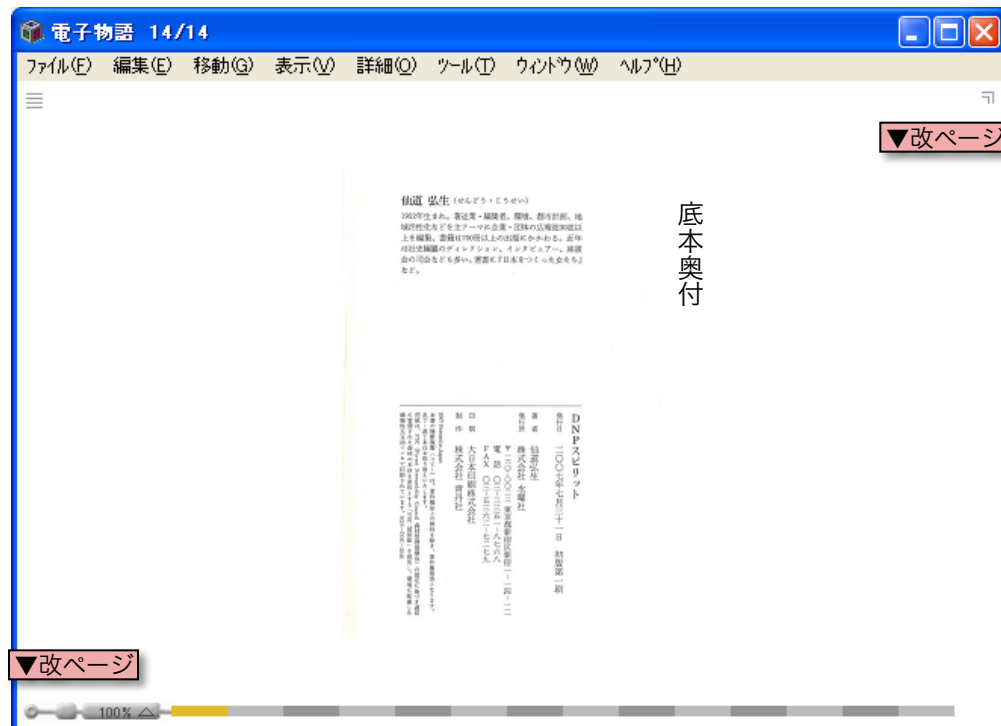
TTXファイル

```
<!-- ===== 画像 ===== -->
<T-PB t-class="image">
<T-IMG src="img/samp_T.jpg" height="100%" orgwidth="1152" orgheight="1536"
shrink="screen">
<!-- ===== 本文 ===== -->
<T-PB ~ >
```

横長画像の場合

```
<!-- ===== 画像 ===== -->
<T-PB t-class=" image">
<T-IMG src="img/samp_Y.jpg" width="100%" orgwidth="1536" orgheight="1152"
shrink="screen">
<!-- ===== 本文 ===== -->
<T-PB ~ >
```

【作業手順】 (10) 奥付の設定



この図では中央揃えとなっていますが、実際は右揃え(縦組みの場合)になります。

奥付ページです。

- 天地左右中央揃え 本文と同じ右揃えとします。
- ファイル名は「oku.jpg」とします。
- サイズは「ページ見せ画像」に準拠します。

※ここでは「ぼかし」画像を使用していますが、鮮明画像を使用してください。

- 柱非表示とします。
- 画像内に小見出し相当の「底本奥付」という文字を付加。文字に重ならない位置に入れます。(ページ始側を推奨)

「底本奥付」の文字はスキャン画像の中に画像として入れてください。

TTXファイル

```
<!-- ===== 奥付 ===== -->
<T-PB t-class="okuzuke">
<T-IMG src="img/oku.jpg" height="100%" orgwidth="1200" orgheight="1536" shrink="screen">
```

【作業手順】 (11) 電子クレジット作成

電子クレジットページです。

・奥付の直後に単独ページとして入ります。

以下の文言が入ります。

書名 [必須]

著者名 [必須]

発行者名 [版元の任意]

発行 [必須]

(発行連絡先住所・URLなど) [版元の任意]

著作権 [版元の任意]

電子書籍発行日 [版元の任意]

電子書籍制作日 [必須]

電子書籍制作会社 [推奨]

(その他注意事項) [版元の任意]

・「電子クレジット」ページ以降に柱非表示とします。

この図では中央揃えとなっていますが、実際は右揃え(縦組みの場合)になります。

TTXファイル

```
<!-- ===== 電子クレジット ===== -->
<T-PB t-class="credit">
書名<T-TAB><T-TAB><T-TAB>電子物語<BR>
著者名<T-TAB><T-TAB><T-TAB>電子太郎<BR>
発行者名<T-TAB><T-TAB>電子太郎<BR>
発行<T-TAB><T-TAB><T-TAB> J P O 出版<BR>
〒〇〇〇-〇〇〇 東京都新宿区 X X X 町〇-〇-〇<BR>
電話<T-TAB><T-TAB><T-TAB><T-TAB>〇〇〇〇-〇〇〇〇<BR>
著作権<T-TAB><T-TAB><T-TAB>Taro Denshi 20XX<BR>
電子書籍発行日<BR>
<T-TAB><T-TAB><T-TAB><T-TAB><T-TAB><T-TAB>〇〇〇〇年〇〇月〇〇日<BR>
電子書籍制作日<BR>
<T-TAB><T-TAB><T-TAB><T-TAB><T-TAB><T-TAB>〇〇〇〇年〇〇月〇〇日<BR>
電子書籍制作会社<BR>
<T-TAB><T-TAB><T-TAB><T-TAB><T-TAB><T-TAB>〇〇〇〇印刷株式会社<BR>
J P - e コード<T-TAB>12345678901234567890
```

表示のタブ幅などは一例です。

4. propファイルの作成

●テンプレートTTXファイルを開き、下記項目を設定します

- (1) propファイルについて
- (2) 書誌情報の設定
- (3) 送り方向を設定

【propファイル】（1）propファイルについて

propファイルはTTXファイルのHEAD部にあるT-Timeタグと同様に書誌情報および初期設定を指定します。

T-T i m e タグで指定しないものが反映します。（strokeなど一部例外あり）

【propファイル】（２）書誌情報の設定（３）組方と送り方向の設定

●propファイルを開き

- 書誌情報と組方向を入力
- 著者パスワードを入力（タイトル個別に作成します）
→ 半角英数字混在の6～12文字で制作者が任意に作成します。記号類は使用しません。

propファイル

```
book {  
  title: "電子物語";           //題名  
  author: "電子太郎";          //著者  
  publishcompany: "J P O 出版"; //発行元  
  comment: "";                 //コメント  
  //truefilename: "";         //正式ファイル名  
  authorpassword: "Uj6dW9rn2"; //著者パスワード }
```

<TITLE></TITLE> に 書名
author="" に著者名（複数名の場合は「、」で区切って下さい
publisher="" に出版社名
をそれぞれ入力します。
※prop で変更保存を禁止とするため、著者パスワードのコメントアウトを
外します。

```
prop {  
  【途中割愛】
```

```
  // 段組  
  stroke: "tate";  
  dangumi: 0; // 0 : 自動段組 1-4 : 段数  
  //fixlinechar : 12; // 1行の字数
```

任意のパスワードを指定

```
  【以降割愛】
```

ページ送りの指定です
右→左ページ送り（縦組み仕様）の場合は "tate"
左→右ページ送り（横組み仕様）の場合は "yoko"
を入力します

5. 書棚用サムネールファイルの作成

- 書影画像から指定ピクセルに縮小した画像ファイル(ファイル名も固定)を作成します。

・ 画像形式：PNG-8		
・ ファイル名	横ピクセル	縦ピクセル
・ thumbnail.png	96	128
・ thumbnail_L.png	48	64
・ thumbnail_M.png	24	32
・ thumbnail_S.png	12	16

※余白ができる場合は白で埋めます。

書影画像の例



サムネール画像4種類の例



24bitや16bitのPNGはエラーとなります。
必ず8bitのPNGファイルを作成してください。

6. 試し読み版の作成（1）

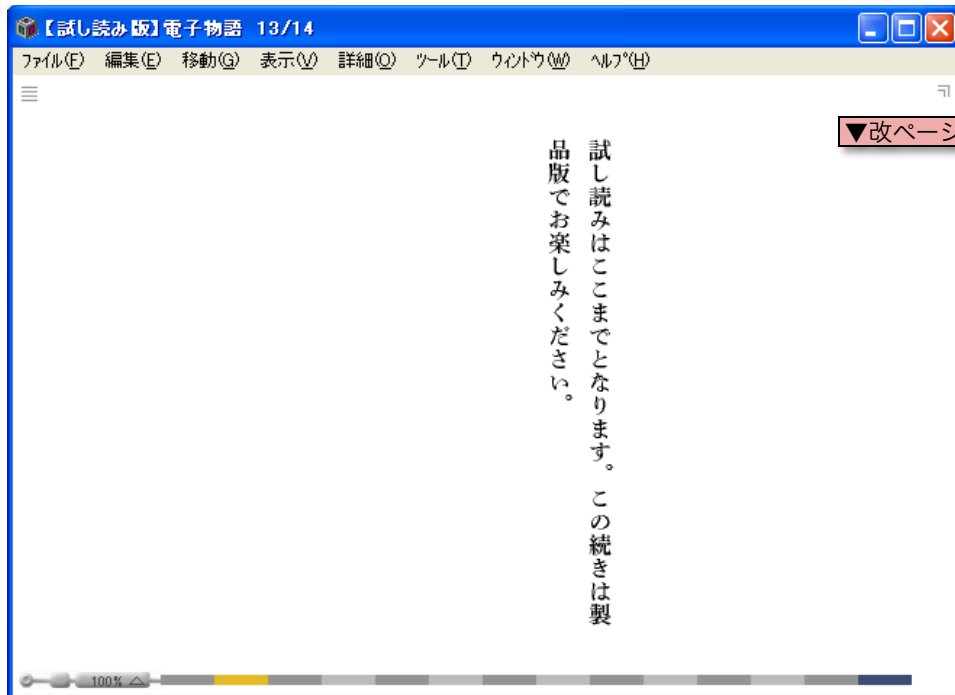
- TTXファイルのタイトル(先頭)に「【試し読み版】」を付加します。

TTXファイル

```
<HTML>  
<HEAD>  
<TITLE>【試し読み版】 電子物語</TITLE>
```

```
【以降割愛】
```

6. 試し読み版の作成（2）



試し読み版を作成します。

- ・製品版全体行数（タグ含む）より、巻頭10%分を試し読み版として作成します。ただし、10%カットが、見出し・改ページ直後など区切りの悪い場合は、それぞれ、見出しの前、改ページの前までとします。
- ・文言およびスタイルは立ち読み版専用のものを使用します。
- ・試し読み版には奥付けは入れません。
- ・本文の最終ページに以下の電子クレジットを挿入します。

試し読みはここまでとなります。この続きは製品版でお楽しみください。

緊デジではドットブックのスクランブル機能は使用禁止です。
スクランブルの設定はせず、必ず本編の後半90%を削除してください。

TTXファイル

```
<!-- ===== 電子クレジット ===== -->  
<T-PB t-class="credit_t">  
  試し読みはここまでとなります。この続きは製品版でお楽しみください。
```

6. 試し読み版の作成（2）

- propTTXファイルのタイトル(先頭)に「【試し読み版】」を付加します。

propファイル

```
book {  
    title: "【試し読み版】 リフロー型_JPO案";           //題名  
    author:"電子太郎";                                   //著者  
    publishcompany: "J P O出版";                         //発行元  
    comment: "";                                          //コメント  
    //truefilename: "";                                  //正式ファイル名  
    authorpassword: "Uj6dW9rn2";                         //著者パスワード  
}  
【以降割愛】
```

7. ドットブックビルダーでドットブックの生成及び検査

●ドットブックビルダーでドットブックを制作します。

文字品質、体裁、動作（リンク、ページ送りなど）およびTTXAnalyzerで問題ないことを確認のうえビルドします。

納品ファイルは指示に従ってください。

ドットブックは〔PC配信用（有償）〕のものが対象です。（〔ワーキング bookを生成〕で作成したファイルは納品できません）
背景色（T-Timeタグ）やpropファイルで設定した「ページ送り」など、ドットブックファイルでないと検査できないものがあります。

ドットブックファイルを検査します。

ドットブックビルダーの例

